

令和元年度第1回津山市ファシリティマネジメント委員会 議事概要

日 時 :	令和元年7月2日(火) 午後3時 ~午後5時	場 所 :	津山市役所2階 大会議室
出席者	<p>【委 員】 藏田委員長、大山副委員長、河部委員、福田委員、歌房委員、白石委員、堤委員、上田委員、岡委員、岡部委員、小山委員</p> <p>【津山市】 財政部長、財産活用課長、財産活用課主幹、財産活用課職員</p> <p>【傍聴人】 4名</p> <p>欠席者 なし</p>		
1. 開会	委員11名に対して11名の参加で、委員会の成立を宣言。		
2. 財政部長あいさつ	財政部長挨拶。		
3. 委員委嘱			
4. 委員長、副委員長選出	委員長に藏田委員、副委員長に大山委員を推薦する案が全会一致で承認。		
5. 津山市ファシリティマネジメント委員会の所掌事務について	財産活用課長より説明		
6. 津山市の取り組みについて(報告)	財産活用課主幹より説明		
7. 協議事項	(1)令和元年度ファシリティマネジメント委員会の取り組みについて 委員長より、今年の検討事項について具体的なテーマや進め方を決めていく旨の説明。		
委員長 :	委員各位、感じたこと・わからないこと・どんな思いで来てもらったかを一言ずつお話しいただきたい。この委員会を経験していると面白いと思えるが、経験がないとなかなかつかみどころがないと思うのでそういった不安な部分もここで共有していければと思っている。		
委 員 :	私は今回から参加させてもらった。取り組みを始めて3年目になるんですが、商工会議所青年部として市へ政策提言をさせてもらっている。昨年度は保育園の活用を今回提言させてもらった。最初の提言では衆楽園でしっかりお金をもらえる仕組みを作っていくことが必要ではないかという提言をさせてもらった。利用がない中で、利用者を増やしていくというのは難しいが、どこかの会社に施設を一定期間貸し出しをしてもらえたりすると、何かお手伝いのできるのではないかと考えている。何をというのは整理ができていないが、次回の委員会でもしっかり意見を出していければと思っている。		
委 員 :	丁寧な報告でありがたかった。5年前を振り返ると白書の作成から参画させてもらっている。そのときはFMの意味が分からなかったので白書に対して老朽化した公共施設の一覧ができたという認識だった。 平成31年4月からの民間提案制度は民間企業にとってはとてもよいビジネスチャンスになるんじゃないかと考えている。行政が稼ぐということではなく、民間企業を稼がせるということを全面に出せばいいと思うし、その方が民間企業にとっても夢があると感じている。津山市のFMに関する考え方がこんなに進化したというのがもっとアピールできれば非常に良いと感じている。本庁舎がショートリストにあったので驚いた。老朽化して手もつけられない		

施設を民間にどうかしてくださいという訳ではなく、新しい施設も含んでいるのは良いと思う。ボロボロのものだけだと面白くないので作ったばかりの新しいものの提案でも受け入れる器の大きさが重要。人が集まれば商売がしやすいので攻めの話ができればやりがいがあるかと思う。

どこまでどういう落としどころにするかはまだわからないが、なかなか言いにくいような柔軟な意見が出ることを信じている。積極的に取り組みたいと感じている。

委員： 市からの説明の中にあつたいろんな数値を引き上げているのは阿波ではないかと感じている。阿波村が合併したときに勢いで建ててしまつて公共施設の塊となっている。大きな公共施設はいっぱいあるが阿波地域の人が一番使っていないのではないかと感じる。阿波の人は阿波のものを外の人に売ることかという考えを持っている人が多いと思う。指定管理の勉強をしているときに阿波地域にこんなにお金を使っているのかと感じた。そんなに使われていない物を残す必要があるのかなと個人的には感じているが、利用者からするとシビアな話であることもわかっている。今、阿波には移住者が増えてきている。阿波の中で動いてくれているのはその移住者の人たちで、彼らにも委員会に出てもらえばいい意見が出るのではないかと感じている。大きな施設があつても地域に人がいない、外の人が阿波に来ないと何も変わらないと思っている。阿波には今人が集まってくれているが、公共施設を使っているかといえばそうではない。また、外から来る人(移住者等)は補助金を当てにしてないが、昔からいる地域の人達は補助金を当てにしている人が多く、地域内外の人たちでは考え方が違う。

イベント等で使いたくなるような施設は津山市のもので、市は許可してくれるが、地域の人たちがこの建物の用途ではないと許可をもらえないという事態がある。公共施設を決まった用途でしか使用できないといっている人がいることが問題で、そのあたりがうまくいくようになればいいと感じている。

委員： 今までの取り組みを聞いていてわくわくするのは津山市が一番の不動産所有者というところで、その不動産をどうしていくかということに参画していけることが楽しみ。

自社で信用金庫の空き店舗で何かしたいと考え、3階建の複合施設としようと決めてこの冬にオープンする予定。この事業でも各フロアのプランニングがすごく楽しかった。公共施設の利活用について、この物件に対してどんなことができるか考えるとわくわくするし、それを市側が発信しているというのが新しい。これをもっと広く発信・知ってもらうことが必要だし、私と同じ感覚を持っている人たちをわくわくさせてあげたいのでそんな人たちにこの情報を届けることが重要だと思う。

わくわくさせるような物件の作り方を考えることが好きなので、わくわくする意見を出せればと思っている。

委員： 私は、現在地域の人と寄り添う仕事をしている。また仕事の中でマッチングを一番重要視して仕事をしている。人と団体・団体と団体・民間と行政等をマッチングさせるお手伝いをしている。地域だけでやると稼げないが、民間とやれば稼いでいけるというように可能性が広がる。

ひとつの部署だけで考えると凝り固まるし、SNSでの情報発信だと公共に声が届かない。そのため、1回／月で市役所めぐりをしている。各課を巡って、縦割りに横ぐしがさせればなと考えながらやっている。これが実現ができればニーズに応じた取り組みができるのではないかと感じている。

施設を活用しようしようとする協定書が必要で、枠外のことをしようとする役所からできない理由を言われることが多い。今まで通りの考え方ではなかなかニーズに合わないので時代の流れに乗っていくことも必要。新しい提案を受け入れるときは自由(柔軟に)に対応していける仕組みづくりができればと考えている。

委員 : 職業柄高齢者と触れる機会が多い。高齢者のためのデイサービス等の施設は大きな箱ものも多く、そこに大人数を呼んでやるが多かった。ここ最近では古民家で家のような暮らしの中でデイサービスをやるのが流行っている。そのことにより認知症の進行を遅らせる可能性がある。津山市では空き家も多くあり、そのような空き家を利用して、介護事業者に使ってもらえるようにすれば面白いと思う。

楽しんで提案できるのが大事だと考えている。1つの目的に絞って話し合っていけたらいいと思う。会議室で話し合うだけではわからないことも多くあると思うので、実際に場所に足を運んでみる必要があると考える。最近、津山市の商店街を改装したカフェに行ったりすると、若い人が多くてパワーがあると感じる。やはり実際行くのが重要だと思う。

委員 : 分からないことが多かったが、学生や子どもを巻き込んでいける機会があればいいと思う。

大学生は津山市、岡山県の他にも四国・沖縄出身の大学生が多いので、車を持っていない人がほとんどなので、公共の乗り物の充実をお願いしたい。そこから公共施設の取組みが良くなることの始まりだと思う。交通等を見直すような発言ができればと思っている。

委員 : 福祉財政の授業で、津山市職員さんから講義をしてもらって感じているのが、取り組みをたくさんしているのはわかったが、津山市民ではわからない視点、大人じゃわからない視点があると感じている。授業の中で大学校舎を回って障害者の方が来たときに困る箇所をまとめて大学に毎年提出している。提出した際には大学の人たちからもいろんな視点を踏まえないとわからない事があるといわれる。私自身も型にとらわれない視点を持ちたいと思っている。

委員 : こんなに多くの意見を聞くことができたのは初めてじゃないかと思う。今年は素晴らしいメンバーなんじゃないかと感じている。

副委員長 : よく意見が出る会議でいいと思う。個人的には使用料を使用者からもらってもいいと思う。公会堂や公民館を使用する事が多いが、公民館長等に相談しても無料でしないといけないと利用料を取ることに反対されてしまう。よくわかっている責任者を配置してもらって、利用料をとれるようにしていければ良いのではないかな。

公会堂を使うことがあるが、電気代は町内会費で負担している。少しでも利用者に負担してもらうことが重要ではないかと思う。

委員長 : 皆さんからいいお話を聞くことができた。必要な人は必要なときに現れる。ここで忙しい皆さんが集まっていただけの意味をよくかみしめることが大切。皆さんよくとらえていただいている。今はやるべき時。行政でいうと制度を作る、民間はビジネスモデルを作る、市民はライフスタイルを作るということ。1つずつだと動けないのだから官民連携が必要。これに合わせて課題解決をしていきたいと思う。令和は新しい物を作る時代である。

『人』『物』『金』のなかで物と金はどうにかできるが、人はどうにもできない。その場にいる

人で一生懸命やって多くの人を巻き込んでいくしかない。今日皆さんが感じたこの人たちと話がしたいという直観は正しい。勉強をすることは大変だが、自分がやろうと思ってする勉強は楽しいもの。新しい取り組みはいっぱいあるがそれを津山市に持ってきただけでは成功しない。志をひとつにしてこのメンバーでやれば成功する。諮問があって答えを出すのが今までのFM、令和のFMは助言提案していくようにしていきたい。

様々な人たちと話をしながら道なき道を進んでいければ。どんな取り組みをするにしても冷や汗をかきながらやってるプレーヤーが絶対いる。令和のFMはこのメンバーがそうであると思っている。

私案としてわくわくするような事を具体的にターゲットを絞ってやっていきたい。ここで考えた案を誰かが絶対にやってくれるというほど優しい物ではないが、我々が力を合わせていける物ができれば実現できるかもしれない。そこに賭けていくのがこれからの時代。

答えがわかっているようなリスクのない挑戦は今はないが、それぞれの代表として座っている役割があるので、その役割をうまく使いながら、かつ皆さんの持っている物をテーブルの上に出し合って答えを出す委員会にしていければと思っている。

公共施設は課題はあるが可能性も秘めている。その答えは津山で作るしかないと思っているし、みんなの夢を合わせて形を作っていきたい。この中でビジョンができれば、世代等を超えて分かり合える幸せな津山になると思う。

みんなが『よしやろう』というようなテーマを定めたいと思っている。そのために事務局には枠組みや仕組みを作ってもらって、民間の考えで提案を作っていければと思っている。次回以降各委員の経験話し合い学びあえる場を作っていきたい。自分たちの思いが高まれば他の人に言いたくなるので自分たちがやりたいと思えるようなものにしたい。自分たちが楽しめていれば仲間が自然と増えてくる。そんな委員会にしていきたい。

戦略的に投じた時間が帰ってくるくらいのテーマを設定していければと思っている。新しい津山のサービス・仕組みづくりにつなげていきたいと考えている。言うべきことは言う、聞くべきことは聞くということが大事なのでしっかり意見を言える関係を作っていければみんなが楽しくなっている。

次回までにこんな風に進めていきたいということを設定していければと思う。

(2)その他

事務局： ・7月24日に開催される公民連携Dチャンネルについて
・FM だよりについて

8. 第2回津山市ファシリティマネジメント委員会開催日時について

令和元年8月6日（火） 午後3時から

9. 閉会